



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

令和7年12月19日

我孫子市小中一貫教育だより
第398号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなきちさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子どもも
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子どもも
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子どもも



布佐地区キャラクター
「ふさだ だいしお」

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

こほく・あらき ふれあいカリキュラム～湖小・5年生 「地域の方とみそ玉づくり」

湖北小学校5年生がオリジナルカリキュラムの授業実践で家庭科「みそ玉づくり」を実施しました。家庭科室のホワイトボードには「一杯のみそ汁に思いを込めて、心を通わせるみそ玉作り」と本時のめあてが書かれていました。思いを込めてというのは、日ごろ放課後学習室でお世話になっている地域ボランティアの方々に感謝の思いを込めるという意味で、本時は実際に地域の方をお招きしてにぎやかに開催されました。

調理台の上には、班ごとに考えたみそ汁の具が並び、校外学習で行ったみりんミュージアムで教わったみそ玉を作る準備が整っていました。

みそ玉づくりは、地域の方と会話をしながら、和やかに進み、笑い声があちらこちらから聞こえてきました。

みそ玉に沸いたお湯をそっと注ぎ込むと、教室いっぱいにみそや鰹節のいい香りが漂いました。「いただきます。」手を合わせた後はみんなで歓談を楽しみながら、温かいみそ汁を頂きました。地域の方との会話は弾み、子どもたちからの質問だけでなく、地域の方からの様々な話題を楽しんでいました。

終わりに、感想を述べました。「みそ汁だけでなく、地域の方と話せて色々知ることができて楽しかった。」「美味しいかった。身も心も温まりました。」「お客様に『おいしい。』と言ってもらえたことがうれしかった。家でも作ってみたい。」子どもたちの感想には、この学習のめあてに向けて取り組んだ達成感に溢れた姿がありました。地域の方からも「皆さんの授業を参観させて頂いて、その成果を味覚芽を通して味わわせて頂きました。本当にありがとうございました。」とお礼の言葉がありました。「地域と共にある学校」を体現化した本時は、子どもたちがより一層地域の方を感じる機会となりました。



つながる 広がる 支え合う～並木小・6年「認知症サポーター養成講座」

並木小 6 年生がオリジナルカリキュラムに位置付けた認知症サポーター講座を受講しました。我孫子市社会福祉協議会の方 2 名と北地区社会福祉協議会の方 6 名の方が、2 クラスに分かれて、教室で行いました。

「認知症って何だろう」という冒頭の投げかけから、身近な自分の経験をもとに考えました。その後、用意されたセリフをもとに、役割演技を行いました。何度もご飯を食べないと主張するおじいさんと、食べ終えたことを説明する姉妹の役です。会話の最後には、おじいさんに強く言ってしまうところで、「どうしたら、やさしい対応ができるだろうか」と考えました。言い



分を認めたうえで別な話題にして、気持ちを他へ向けさせるような方法が紹介され、認知症の方が自尊心をなくさないような周囲の人の対応が大切であることを学びました。学習の最後には、認知症サポーターの任命証を受け取りました。



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

令和7年12月19日

我孫子市小中一貫教育だより
第399号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなきちさん」



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子どもも
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子どもも
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子どもも

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

未来に残してつなぐ ふさ カリキュラム～南小・4年生 「学区の安全マップを作ろう」

布佐南小学校4年生が総合的な学習の時間でオリジナルカリキュラムに位置付けた授業を実施しました。防災に焦点をあてた身近な施設や設備を探査、その用途を調べてマップを作成し、自分たちにできることや気をつけることを考えさせることが目的です。本時は校内にある施設・設備を探査してからマップを作成する2コマ目の授業でした。

授業が始まり、写真の順番に沿って担任からその名称や用途を児童たちに問い合わせ、探索時に覚えたことを発表したり、口々に呟いたりしながら、机上にある「総合学習ノート」に貼ってある各自のワークシートにも記入していきました。途中、担任は簡易トイレを設置する「下水用マンホールの注水口に入るのはきれいな水か井戸水か」を問い合わせを明らかにさせるなど、児童と対話しながら学習内容を深め、発言したい児童たちも多く、教室内は活気に満ちていました。

一通りマップの記載が終わり、担任から「防災用トイレを使うようになったら、みんなはどんなことに気をつけるか?」という問い合わせがあり、まず個で考えてからグループを作りお互いの意見を交換して学び合います。グループでは、リーダーの児童が一人ずつしっかりと発言できるように進行している様子や、身振り手振りを交えながら自分の考えを一生懸命に主張している児童の姿が見られました。

グループ協議に続いて代表者が全体の前で発表。「なるべく汚さない」「水を無駄にしない」「高齢者を優先する」「組み立てる時の手伝いをする」など多角的な見方をした様々な意見が発表されました。また、担任からの口添えがあり「汚してしまったらしっかりと掃除をする」という意見も出ました。続いて、担任から「どんな時にみんなは南小に避難する?」と問い合わせがあり、児童たちは口々に自然災害の種類について知っていることを回答しましたが、その中の大雨や洪水については南小が避難場所としては不適であることもしっかりと確認し合いました。

最後に、次の時間は気象台公園に防災倉庫を見に行くことを地図を使って確認。シートを配付して見てくるポイント(何が備蓄されているか)をグループで予想しました。担任は各グループを回りながら疑問をもたせるような問い合わせを行い、一人ひとりが探索時に協力してくれる市の職員に聞きたいことを頭に描けるように工夫していました。



こぼく あらき ふれあいプロジェクト～新木小・4年「災害から地域を守ろう」

新木小4年生が災害について考える学習を行いました。「もし災害が起こったら、安全に避難するにはどうしたらよいか」という学習問題を子どもたちは真剣に考えていました。事前に自分の避難場所を確認し、自宅から避難場所までの経路で危ないと思われる場所の写真を撮影していました。



すぐに安全マップに反映できるようにと、担任が用意したいくつかの危険な場所の写真を紙に貼りつけながら、なぜ危険なのかを記述していました。特に強調されたのは、マンホールでした。通常はあまり気に留めないマンホールのふたですが、災害が起つてふたが開いてしまうことが万が一にもあるかもしれないということを想像しました。「自助・共助・公助」という言葉を出発点にして、自分たちが安全に避難するための方法について具体的にイメージすることができました。



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

令和7年12月19日

我孫子市小中一貫教育だより
第400号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなきちさん」



布佐地区キャラクター
「ふさだ だいすけ」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子どもも
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子どもも
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子どもも

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

命でつなぐ我孫子中区カリキュラム～二小・2年生 「わたしの町はっけん準備」

我孫子第二小学校の2年生が、生活科の学習で「町たんけんに行くために気を付けることは何だろう」という安全学習を行いました。学区にある道路の写真を提示され、気が付いたことを発表しました。普段見慣れている風景でも、「安全」という視点から考えると、子どもたちはいろいろなことに気が付きました。標識や横断歩道、さらにはガードレールなど、自分の身を守るためにたくさんの工夫があることを発見し発表しました。

また、子ども110番の表示がどこにあるか、自分の通学路を想起して、利用したことがあるかどうか、口々に話し合っていました。



まとめに、町たんけん当日に気を付けるべきことについて全員で考えました。「まいごにならない。」「車や自転車に気を付ける。」「グループで行動する。」など、子どもたちは町たんけんに行くルールを決めて、安全に学習ができるように準備することができました。

未来に残してつなぐ ふさ プロジェクト～布佐小・6年「職業人講話」

布佐小学校6年生が総合的な学習の時間でオリジナルカリキュラムに位置付けた「職業人講話」を行いました。職業人講話の講師の方々は皆さん保護者ということで、地域の方、身近な方から職業について話を聞くことができる機会となりました。協力体制が素晴らしいと思いました。

8つの職業ブースには、警察官・免税店員・大工・CA・医療従事者・介護職員・保険会社職員・コンビニエンスストア店員の方がいてくださいり、児童たちは4人グループで順にブースを回りました。

大工のブースでは、実際に大工道具を見て触って体験して職業についての理解を深めました。「かんながけ」は、ふわっと香る木材の香りを感じながら、とても力のいる作業であることが分かりました。コンビニエンスストア店員のブースでは、「賞味期限の管理はどのようにしていますか。」「一日の電気代はいくらですか。」など身近なコンビニがどのように運営されているのか疑問に思っていたことをどんどん質問していました。CAのブースでは、「ドラマであるような機内でお医者様を呼ぶことって本当にありますか。」の質問に「ありますよ。」の回答が返ってきた瞬間、一同驚いた表情

をしていました。「お客様は外国人も多いですか。」「円安の影響で海外からの観光客が増えています。一方日本人の乗客は減っています。海外出張などリモートで済むようになり利用が減っていることも影響しています。」など職業を通して社会の動きを知る一面もありました。



保護者の方々の協力を得て、幅広い職種の従事者のお話を聞く機会となりました。身近な人からの話だからこそ「働くこと」をより「自分ごと」としやすい学習だったと思います。キャリアについて考えを深め、来年度、中学生でのキャリア学習につなげる効果的なものであったと思います。



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

令和7年12月19日

我孫子市小中一貫教育だより
第401号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなきちさん」



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子どもも
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子どもも
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子どもも

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

つながる・広がる・支え合う～並木小・5年生 「高齢者疑似体験をしよう」

並木小5年生が高齢者疑似体験を行いました。この体験には、北地区社会福祉協議会より10名、また我孫子市社会福祉協議会とボランティアセンター「てとりあ」より2名の方が来てくださいました。体験活動は体育館で実施。全体での説明を終えると三か所に分かれて体験しました。

一つは、白内障の見え方が体験できるゴーグルを身に付けて、提示された資料で見え方を確認しました。ゴーグルを外して実際の見え方と比較して、白内障の方の見えづらさを体感しました。一つはベストと首と手首足首に重りを付けて、肘とひざにサポーターをつけて関節が曲がりにくい状態を作り、肩から膝にかけて、動きが制限されるベルトを着け、腰が曲がった状態で歩行体験をしました。体育館の真ん中で折り返し、2回目は杖を用いて歩行しました。高齢者が、杖を用いることで少しだけ楽に歩行できることを身をもって感じることができました。一つは、軍手を両手に着用し、お箸で豆をつまんだり、落としたお金（硬貨）を拾ったり、新聞をめくったりして、感覚の不器用さを体感しました。



これらの体験グッズは我孫子市社会福祉協議会が所有しており、ボランティアセンターで管理しているそうです。久寺家中区のオリジナルカリキュラムの福祉教育の一環で行われた体験です。高齢者への配慮を学び、「支え合う」社会の実現に向けた取り組みだと感じました。

つながる・広がる・支え合う～根戸小・3年「パラスポーツ・ペガーボール」

根戸小学校の3年生がオリジナルカリキュラムの一環で我孫子特別支援学校の先生や我孫子市スポーツ推進委員の方をお招きし、パラスポーツ「ペガーボール」の体験授業を実施しました。

このペガーボールは、聴覚障がい児や知的障がい児の運動意欲を高めるために生まれました。ペガーボールは、スペイン語で「くっつく」という意味のスポーツであり、特殊なポンチョを着た「ペガーマン（オニ役）」に向けてボールを投げて当て、ボールをくっつける競技です。

活動が始まる前にボールが渡されると子ども達は「柔らかい。ふわふわする。」と興味津々の様子です。無我夢中にあってボールを扱っていました。

活動が始まると段階的に「動かないペガーマンに向けてボールをくっつける練習」、「離れた場所からボールを投げてくっつける練習」、最後には実際に動くペガーマンにボールを投げ、くっつけた個数をチームで競うゲームを行いました。活動の中で子ども達は「どうしたら上手にペガーマンにボールをくっつけることができるか」を考え発表したり、ペガーマンの顔にボールを当てないように加減したりと試行錯誤しました。活動全員が安全に楽しむことを意識しながら体験している姿が見られました。



久寺家中学区の福祉教育プログラムの一環として行われたペガーボールです。今回、パラスポーツを楽しむことを体験し、パラスポーツに興味・関心を持つ動機付けとなる学習でした。



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

令和7年12月19日

我孫子市小中一貫教育だより
第402号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなきちさん」



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子どもも
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子どもも
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子どもも

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

命でつなぐ我孫子カリキュラム～高野山小・2年生 「災害に備えるには」

高野山小学校の2年生で、我孫子中学校区オリジナルカリキュラム「命でつなぐ我孫子カリキュラム」の一環として、学級活動「地震や津波から身を守る行動とは？」が行われました。前日の8日午後11時15分頃に青森県東方沖を震源とする震度6強の地震がありました。子供たちは「お母さんが教えてくれたよ。」や「ニュースでやってたね。」など、地震や津波について意識を高く持って学習に臨みました。

最初に、地震の被害に関する動画を視聴しました。阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本地震の様子に「すごくこわいね。」「地面にひびが入っていくよ。」と驚きを隠せませんでした。

次に、地震が発生したときに考えられる危険と、自分の身を守る行動について考えました。学校にいるとき、通学途中、家で過ごしているとき、お店で買い物をしているときなど、場面を想定して考えました。

考えを発表する場面では、「家中では、冷蔵庫が倒れてくるかもしれないから、机やふとんにもぐればいいと思う。」や、「通学中に大きな地震が来たら、こども110番のおうちに助けてもらう。」など、今までの避難訓練で学んだことや、安全教育で学んできたことを結び付けながら、身を守る方法の考えが発表されました。「お店で買い物しているときは、買い物かごをかぶって頭を守る。」と発表があったときは、クラスのみんなから思わず感嘆の声が上がりいました。まずは自分の命は自分で守ること、そして学年が上がっていくにつれ周囲の安全に気を配れるようになるよう、系統的な安全学習を「命でつなぐ我孫子カリキュラム」が目指していることが感じられる学習でした。



つながる・広がる・支え合う～根戸小・5年「パラスポーツ・車いすバスケットボール」

根戸小5年生が総合的な学習の時間でパラアスリート等学校訪問事業を実施しました。本時は、パラアスリートの車いすバスケットボール選手、財満いずみ氏をお招きし、講演と実技体験の二本立てで行われました。

財満選手を拍手でお出迎えした後、体育館で車いすバスケを始められたきっかけから「しんどい時は上り坂」というコチーチからの一言を胸に辛い練習を乗り越え、東京パラリンピック出場、そして、更に自分自身を追い込み「まだ変われる。まだ変わりたい。」という思いをもって男子チームの埼玉ライオンズに入団した経験談を聴きました。財満選手のお話から自分の道を拓くのは自分で、その時々で自分で選択していくことの大切さを学びました。

体験では、車いすバスケの3on3と車いすリレーを行いました。バスケ体験では、ドリブル、車いすの操作、パスと様々なスキルが必要とされる試合で悪戦苦闘しながら、どの児童も時間いっぱいゴールを目指しました。周りの声援も後押しし、車いすバスケとリレーで体育館は熱気に包まれました。体験を経て、車いすスポーツの大変さを体感すると共に、面白さや楽しさも同時に体感することができました。



終わりに、児童たちからの質問コーナーに加えて、車いすバスケのプレーも実演して頂きました。体験後だったため、あんなに大変だったドリブル、そしてゴールが決まると体育館には「おー！」「すごい！」と拍手と共に歓声が上がりいました。貴重なパラスポーツの体験を経て、「つながる・広がる・支え合う」の久寺家中区福祉プログラムの発達段階に見合った学習であったと感じました。